

業部

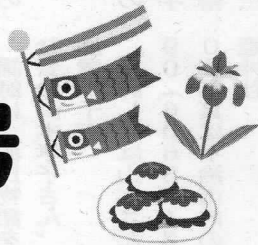
1651
602
297

おとくに

京都新聞販売所へのご用は

向日町(921)2602 大山崎(956)5297
向日町北(922)0792 長岡京(951)1244
ご購入のお申し込みは ☎0120-464-468

5月号

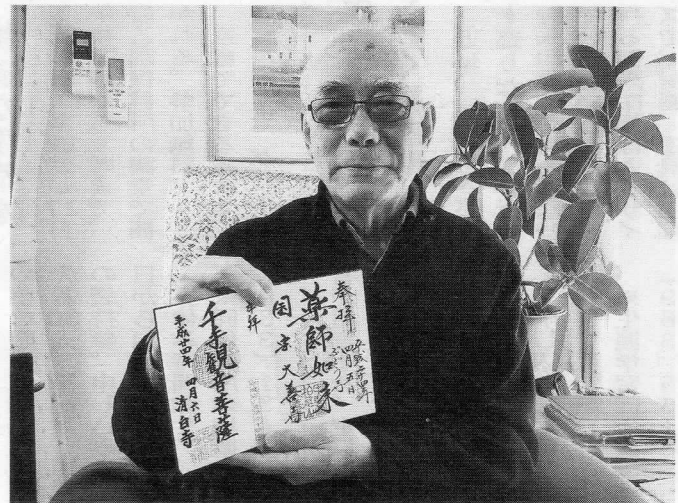


向日町地域の京都新聞に折り込んでいます。 ★発行部数=20,300部

趣味に 熱中

御朱印の収集

津崎 晴功さん
(長岡京市)



健康祈り、千カ所達成

御朱印は、社寺にお経を納めたときにいただくいわば「受取証」。最近では、若い人たちの間でも、ちょっとしたブームのようだが、津崎晴功さんは、まさに筋金入りだ。これまでに1,000カ所余を参拝し、自身のホームページで、そのすべてを記録している。

最初の御朱印は、会社勤めをしていた1990年(平成2)年12月だったという。「車を買ったばかりで、試運転を兼ねて善峯寺(京都市西京区)へ行きました。そのとき、御朱印というのを知り、いただいたのがきっかけです」。以来、西国三十三カ所観音霊場など

を巡るようになった。1995(平成7)年に、東京に単身赴任するに、巡礼友だち「もでき、東京周辺の坂東三十三カ所、秩父三十四カ所を訪ね歩いた。いつの間にか、西国、坂東、秩

父を合わせた「日本百観音」すべてにお参りしていた。東京のいろいろな地域にある、「七福神巡り」などにも出かけた。「山深い霊場の近くには、美味しい蕎麦屋さん、海に近い寺社には漁師飯の店があったり、お参りの後、友だちと一緒に一杯飲むのも楽しかったですね」と、津崎さんは懐かしむ。会社を退職した後も御朱印集めは続き、ついに2013(平成25)年、大分県の宇佐

まれているようだ。

御朱印を集め始めて、もうすぐ30年になる津崎さん
神宮で「1千カ所」を達成した。「御朱印総研」で検索できるホームページでは、お参りした寺社を府県別でも整理しているが、京都府が一番多く、263カ所になっている。
「御朱印をいただくときに祈願することは、いつも家族の健康でした」と津崎さん。今年、後期高齢者になったが、サイクリングを楽しむなど元気だ。「実は、出雲大社がまだ行けてなくて…。家内と一緒に行ってみたいですね」とも。「信仰心は普通ぐらいでしょうか。でも、御朱印集めは単なるスタンプラリーとは違います」と笑うが、日々、神仏のご加護に包まれているようだ。